春夏秋冬

武蔵野会ニュース No. 159 平成27年10月16日

発行 社会福祉法人武蔵野会

本部 東京都八王子市台町1-19-3 TEL042(623)8509

http://www.musashinokai.jp/

特集 地区の取り組み

米寿のお祝い
（西水元 あやめ園）

トーク 福祉機器

小平福祉園の全面建て替えがもうすぐ完工します。先日、新生活棟に設置する特殊浴槽の入札を行いましたが、この機種はコンパクトなデザインで、安心、快適、スムーズな操作性に係る様々な工夫が凝らされています。

従来から我が国では、高齢者や障害者の福祉の増進と産業技術の向上を図ることを目的として、最先端技術を用いた実用的な福祉機器の開発が進んでいますが、身近なところで、その成果の一端を見る思いとなりました。

福祉機器の中でも、特に近年は、介護・福祉ロボットの開発に目覚ましいものがあるようです。移乗介助、移動支援、排泄支援、認知症者の見守りが重点5分野とのことですが、認知症高齢者や障害児等にセラピー効果がある動物型のロボットも既に開発されています。

福祉施設における利用者支援の様々な場面において福祉機器の活用は極めて有意義と考えられますが、価格面や利用者、職員双方の心理面等においてまだまだ普及が進まない現実があるとも言われています。ただ、福祉、介護の人手不足対策や職員の腰痛防止等は喫緊の大きな課題です。

介護の負担軽減が職員の心身の余裕を生み、利用者の生活の質の向上につながる、より良い支援ができるという好循環を実現するためにも、福祉施設における福祉機器の導入を今後さらに進めていく必要があります。もちろん、機器の使用に当たっては利用者の方への声かけをしっかり行うなど、適切な使い方に立つことが大前提です。

10月は国際福祉機器展が開催される月。最新の情報を入手しながら、武蔵野会各施設において、従来からの電動リフトや特殊浴槽、介護ベッド、離床センサー等々に加え、ロボット型の福祉機器が登場するのも間近いかもしれません。

社会福祉法人武蔵野会 理事長　上野　純宏

特集 地区の取り組み

社会福祉法人の在り方が問われる時代です。武蔵野会では「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」の基本理念の下、法人後見支援や累犯障害者の地域生活支援、HIV長期療養者の福祉施設受け入れの推進など様々な活動を行っています。また併行して、各地区ごとに、地域福祉の向上の取組や社会貢献活動などの特色を生かして実践しています。今回は各地区の取り組みを紹介します。

八王子地区

八王子地区には、六つの事業所があり、児童・障害施設、障害センターと様々な施設種別を展開しているのが特徴です。法人の中期計画が策定されてからは、武蔵野会の経営課題ならびに八王子地区の目標を設定し、地区として連携・協働して取り組んでいます。

地域プラスワン事業では、地域ニーズの高い生活介護、グループホーム、ショートステイ等の機能を持つ新規事業所開設への計画を立て、準備を始めています。

地域包括関係では、昨年開設した障害児・者相談支援事業所「もなか」が、現在、約300名の計画を作成しています。また、特定障害福祉サービス事業も運営し、居宅介護、重度訪問介護などの支援も行っています。そのほか、児童関係の子育てサロン「ふわり」、子育て相談「ふらっと」、個別支援「ひまわり」、地域障害者余暇活動ではサロン「プラットホーム」等、様々な「もなか」を拠点にした地域活動を展開しています。

社会貢献関係では、累犯障害者の地域生活定着支援を開始して3年目を迎えます。現在も法人本部と協力しながら、近隣のアパート、グループホームで生活する2名の支援を行っています。職員、地域との関係が深まる中、この地域が安心できる居場所となっています。

研修関係では法人研修制度を基本に、階層別、テーマ別の連続講座、研修を年間、90回程開催しています。地区内の役職がトレーナーとして研修を担当し、職員の業務スキル習得のため、分かりやすい研修方法を工夫します。また、研修は、一部を除いて地域の他の社会福祉団体にも公開し、研修機会の少ない事業所等への地域貢献事業としています。今年度は地域から26回、延べ58名の方の申し込みがあり、法人職員と八王子市内の福祉施設職員が共に学び・育つ場としての「地域共育システム」として実施していきます。

研修での熱心な討議

グループホームでは、「ふじもりホーム」、2月より他法人より移譲を受けて運営を始めた「サライ」、支援を相談に特化した自立生活型ユニット「hachiwell lab house」と現在、3つのグループホームが、地区施設のバックアップの中、運営されています。

大島地区

当施設では、地域貢献の一環として開設当初から大島社会福祉協議会と申し合わせを行い地元の在宅高齢者への配食サービスを行っています。施設機能を存分に発揮するために給食業者の一富士フードサービスのご協力のもと、毎週金曜日、11時頃にお弁当を風呂敷に包み利用者さんと共に各地区へお弁当を届けています。そこにはその地区のヘルパーさんが、温かいお弁当をより早く運べるように待機されていて、その場所でお弁当を手渡せば私達の仕事は終了です。ヘルパーさん達に手渡す際、「いつもご苦労様」と声掛けをして貰い、利用者さんは満足そうな笑顔で施設へ帰ることが日課になっています。

また、私達は配食サービスを利用されている高齢者の方に、少しでもお弁当を楽しみにしてもらえるよう、季節毎に応じた絵便りを作成しています。季節感のある絵と言葉を添えてお弁当箱と共にお渡ししています。

先日の配食サービスの出来事ですが、その日は土曜の丑の日で、鰻のお弁当でした。配食サービスを利用されている方からとても美味しかったとお褒めの言葉が、社会福祉協議会を通してありました。

聞くところによると、昔は料理人で味にうるさく、褒めた事が無いぐらい頑固なところがある方らしいのですが、手間暇を掛けたおかずや精一杯の盛りつけ、心を込めた絵便りなどがこの様な嬉しい連絡になったのではないかと思います。

心を込めたお弁当

今後も配食サービスを楽しみされている皆様に、美味しい食事と共に私達の想いも一緒に伝えたいと思います。

御殿場地区

業務改善を目的とした職員アンケートで多く上がった「地域に貢献したい」という意見により、今年度から地域の道路清掃を開始しました。地域に貢献することで利用者さんが「張り合い」や「自信」、「存在意義」などを見い出すことができればという思いから話し合いを進めました。予想以上にたくさんの利用者さんが名乗り出てくれ、月ごとにグループを組みました。掃除隊のネーミングは職員募集し多数の応募の中から「クリーンさくら」に決定しました。

第1回目の活動は5月に実施しました。1人ずつ、ゴミ袋とトングを持ち、散歩コースを歩きながらのゴミ拾い開始です。普段から気になっていたのでしょうか、職員よりも利用者さんのほうが小さなゴミも見逃さず、たくさん拾っていました。最初ということもあり、広げたビニールシートの上に集めたごみを広げると沢山の量になり番屋ヶ峰に避難する事が決められていたそうです。しかも、どの生徒をどの教師が乗せるまで決まっていたと聞きました。綿密な避難計画と訓練の重要性を痛感します。

昭和61年に三原山噴火で全島避難の経験をしている大島町も、あれから30年になろうとしています。起きて欲しくはありませんが、起きたときの備えはしっかりしておかなければと感じています。「どの車両に誰が乗り、全利用者をどのように一時避難させるのか。また、全島民の島外への避難指示が出た場合、出帆港までどの車両を使い、何往復すればいいのか。持ち物はどの程度用意するのか。」全てに具体的な計画が必要です。火災や地震の際の訓練は、マニュアルを作成し、毎月、実施しているところではありますが、噴火の際の行動計画については現在のところ用意できていません。法人の経営目標の中にも事業継続計画（BCP）のシミュレーションの実施（御殿場・大島地区）があります。色々なことを想定し、計画を綿密に立て、シミュレーションが出来ればと考えます。「備えあれば憂いなし」です。

大島惠の園
施設長　横尾泰朗

むさしの武蔵野

備えあれば憂いなし

最近、火山の噴火が相次いでいます。御嶽山、阿蘇山、桜島、箱根など今年に入ってから噴火を伝えるニュースがあちらこちらから聞こえてきます。数十年周期の噴火が重なる時期にきているのではと、ある火山学者が言っていました。気象庁の火山噴火予知連絡会によると、国内に火山防災のための監視・観測体制の充実等が必要な火山は47火山あるとのことです。大島の三原山も含まれているため注意深く情報を収集しなければと思います。

5月29日に起きた鹿児島県口永良部島の爆発噴火は記憶に新しいことと思いますが、その日の3時45分には島民全員が避難したというニュースを見て驚きと同時に感心いたしました。噴火直後、番屋ヶ峰に137人が一時避難し、9時59分に噴火が発生してからわずか6時間弱で全島民が島外に避難を完了しています。この迅速な行動は、避難計画に基づいていることが想像できます。学校では教師の車は駐車場ではなく校舎に近い通路に駐車し、もしもの時は直ぐに生徒を数名乗せ、

事業所の方と一緒のクリーン作戦

ました。お茶を飲みながら集めたごみを見ていた利用者さんの満面の笑みがとても印象的でした。

そして、もう一つ嬉しいことがありました。現在さくら学園裏の道路の歩道拡張工事を行っている「寿組」の皆さんが、第1回目の「クリーンさくら」の活動を見て「私たちにも一緒に参加させてください」と声をかけてくれたのです。こんなに早い段階で、身内以外の方に働きを見てもらえると思いませんでした。

活動は毎月を予定していますが、6，7月はあいにくの雨で中止となってしまい、待ちに待った第2回目は8月に行われました。1回目から2か月も間が空いてしまったにも関わらず、「寿組」からも仕事の手を休めて2名の方が参加し、利用者を気遣い、優しくコミュニケーションをとりながら参加してくださいました。この日は、普段の日中活動には参加したがらないMさんが、飛び入りで参加しました。なんと最初から最後まで先頭で張り切って拾ってくれました。

まだ、始めたばかりの活動ですが、利用者さんの自主性を大切にし、地域の方との連携を大事にすることで、これから先の生活を少しでも潤いのあるものにする為のお手伝いができるよう、活動していきたいと思います。

練馬地区

練馬地区では今年度から3年計画で①グループホームの新規開設と②地域包括ケアの推進(居宅サービスの創設)を掲げています。この目標を掲げた理由は地区事業所の特徴ともいえる、子供から大人までの対象者に対し、地域生活支援を始め入所生活の機能を生かした短期入所事業など、幅広い福祉ニーズに対応したサービスの提供にあります。

地区内では、指定管理を受けた大泉町福祉園・光が丘福祉園・北町福祉作業所・基幹相談支援センターすてっぷの他、東京都から運営移譲を受けている練馬福祉園と小平市に盲重複障害者入所施設小平福祉園を運営しています。また練馬福祉園では児童発達支援事業も行っており、これらの事業所が連携して地区の取り組みを進めています。

計画1年目の今年は「グループホームの新規開設」では、29年4月開設を目標に、重度心身障害者の地域移行の取り組みを、大泉町福祉園が中心となり進めています。地区ではグループホームの立ち上げは2つめとなりますが、重度の障害を持つ方のホームは法人としても初めてです。昨年度地域の方からご理解とご協力を得て、大泉町福祉園近隣の土地が使えることになりました。現在入所予定者の利用者と家族から聞き取りを行い、建物構造や支援体制を協議し具体的な運営内容を検討しています。

きたまちホームの一コマ

「地域包括ケアの推進(居宅サービスの創設)」の取り組みは、基幹相談支援センターであるすてっぷを窓口に置き、入所・通所施設の連携を図り、今年度は地区の基盤となるネットワーク作りを推進しています。今後は居宅介護、移動支援等のサービスがどの地域で、どの時間帯に不足しているのかを明らかにします。早い時期に居宅サービスの事業所を立ち上げ、職員配置など支援体制面での連携を図って行く予定です。

世田谷地区

世田谷地区では、武蔵野会の第4期中期計画と世田谷区の障害者計画(せたがやノーマライゼーションプラン)に基づき、5つの計画を中心に進めています。

1．公開講座

地域福祉の推進や障害理解の浸透を見すえ、区在住、在勤の方を対象に、平成28年2月5日(金)に、「世田谷ものづくり学校」で開催する予定です。講師に赤平守氏を迎え、「累犯障害者支援」をテーマに講義やディスカッションを行います。

2．チャリティーバザー

生活困窮者支援の一環として、今年11月1日(日)世田谷福祉業所行事『わいわい祭』内で開催します。今回の売上金は、生活困窮者支援を展開している団体を通じて役立てていただく予定です。

3．地区アート展（仮称）

これまで駒沢生活実習所で開催していた『KOMA展』を発展させ、地区4事業所合同で開催します。利用者の活動が区民にあまねく周知されることを目標に、毎年開催し定着させていこうと考えています。今年度は、「世田谷ものづくり学校」ギャラリーにて開催します。

4．災害対策

地区4事業所は、世田谷区二次避難所(福祉避難所)に指定され、毎年、避難所運営訓練をしています。地区職員の関心も高く、災害への不安、施設としての整備のさらなる充実の意見が多くあります。そこで、有事の際に利用者と職員の生命の安全確保、避難所の運営、災害時の事業継続計画等を地区で整備していきます。

5．地域包括ケアシステムの取り組み

世田谷区は、高齢化・核家族化・単身生活者の増大に伴い、福祉や介護・医療ニーズが高まっていますが、地域のつながりの希薄化により、支え合いが困難な状況です。家族や親族の支援を前提とせず、地域包括支援センター等関係機関と連携し、必要な社会資源を生み出すなど、新たな絆をつくる必要があると考えます。その第一歩として、各事業所で現在他機関と連携を取っている利用者ケースを更に掘り下げ、まずは関係機関との協働体制を築いていきます。

ワールドカフェ様式での
地域内課題共有のようす

この5つの計画は、世田谷地区4事業所の職員が協働して練り上げている、横断的な取り組みとして進めています。

葛飾地区

今年度は、リアン文京の開設に伴い、千代田区立障害者福祉センターが文京・千代田地区となったため葛飾地区は、西水元あやめ園、白鳥福祉館、東堀切くすのき園、きね川福祉作業所の四施設となってスタートしました。区内の施設が協力して展開しているものには、職員研修、地域啓発のための福祉講座の開催、各施設の行事開催時の職員ボランティアの協力、機材の貸し借り、地域福祉の課題に対して協働によるアクションなどです。

さて、職員育成のための地区研修では、従前から理念研修をはじめ、接遇マナー、リスクマネジメントなどの研修に加え、今年からの新たな取り組みをご報告します。地区の職員研修会では、初級研修を開催しています。武蔵野会が作成した「新任職員のための基本テキスト」を利用して役職者が講師となって新任から常勤、非常勤を問わず初任者を対象に武蔵野会の職員として身につけてほしい考え方や認識をレクチャーしています。

葛飾地区の三カ年目標では、「地域包括支援サービスの構築」を掲げました。昨年度から地区内の障害者三施設では、計画相談支援事業を始めました。それぞれの施設では兼任で相談支援専門員となり、自施設に通所する利用者をまず対象として進めています。将来的には一カ所にまとめ、事務所を借りて、共に事業を進める考えです。法人内で唯一の高齢者施設を抱えた地区のメリットを生かし、障害者、高齢者を問わず地域の方の必要とされるサロン等の運営や施設の自主製品の販売など地域に必要とされる場所として、早期の開設を目指しています。各施設の計画相談支援事業の収益を財源に、事務所を借りることになるので、各施設でのさらなる財務力の向上が期待されています。

なお、今年度の地区プロジェクトとしては、地域の高齢者施設職員を対象としてHIV陽性患者の受け入れ促進のための講座を開催します。また、葛飾地区の新たな担当プロジェクトとして、「生活困窮者支援」を掲げ、調査・研究を進めていく予定です。

成年後見活動の支援

ニュースラウンジ

社会貢献ネットワークづくりモデル事業

練馬福祉園

最近話題となっている「社会福祉法人による社会貢献」ですが、「もともと社会福祉法人が行う事業は、すべて社会貢献ではないか」という意見もありました。

しかし、社会福祉法人制度改革の中で「NPO法人や株式会社も福祉サービスを担っており、福祉事業を行うだけで社会貢献とは言えない」「制度の狭間にあるニーズに応える社会福祉法人の取り組みが認知されていない」「本来事業以外に取り組んでこなかった社会福祉法人もある」といった意見も出されました。その結果、社会福祉法の一部改正として、社会福祉法人には「無料又は低額な料金で福祉サービスを提供すること」が責務として規定されることになりました。

これを受けて東京都社会福祉協議会は平成27年度から、荒川区、練馬区、府中市、国立市、多摩市、東村山市の6か所をモデル地区として、地域におけるネットワークづくりを開始しています。

武蔵野会は、7月29日に開催された練馬区の第1回連絡会に参加しました。練馬区内には、区と区社協を含めて67法人が福祉関係事業所等を有しますが、うち65法人がネットワークに参加の意向を表明し、47法人が連絡会に出席と、非常に高い関心が示されました。

武蔵野会はこれまで、HIV長期療養者の福祉施設利用のための啓発事業、累犯障害者の地域定着支援、成年後見事業の推進、武蔵野会セミナーの毎年開催、被災地支援の継続実施など多様な社会貢献活動に取り組んできましたが、一つの法人だけでは応えられないニーズもあります。

今後、地域におけるネットワークづくりを通じた他法人との連携・協力により、制度の狭間の福祉的な課題について社会の理解が深まるとともに、当法人としては多様なニーズへのきめ細かな対応を一層推進できるものと期待しています。

大島 第2大島恵の園20周年

さる8月29日(土)、大島差木地公民館において第2大島恵の園20周年記念式典が挙行されました。

毎年この時期に創立音楽祭として、両園が共同で企画し、地域の皆様にも声をおかけしているイベントです。今年は第2大島恵の園が誕生し20年の節目ということで、大変ささやかではありましたが、冒頭で式典を催しました。上野純宏理事長の主催者挨拶に続き、ご来賓として三辻大島町町長、赤木大島支庁長、久保田鐵也家族会会長からそれぞれご挨拶を頂戴しました。後半部分ではスライドで第2大島恵の園の歴史を振り返り、近隣から参加いただいた地域の皆様にも、第2大島恵の園を知っていただくよい機会となりました。

音楽祭では、地域で活動されている「差木地婦人会」や「じねんじょ会」による太鼓や演舞に加え、この日のために練習を重ねてきた音楽クラブの皆さんによる合唱を披露させていただきました。皆さん大きな口でしっかりと声が出ていて、20周年を祝うにふさわしい素敵な歌声でした。ラストはミュージシャンの「むらなが吟さん」に登場いただきました。心に染み入る懐かしい曲の数々に思わず小さな声で口ずさむ方が会場にもいらっしゃいました。

「じねんじょ会」の皆様による花笠

大島恵の園両園が開所してから20年の歳月が過ぎましたが、この間、地域の皆様に支えられ見守られた20年だったように思います。今後は新たな歴史を紡ぐ中で、両園が地域に対して、あるいは福祉全般に対して何をお返しすることができるのかじっくりと考えて行きたいと思います。

関東医療少年院の見学

武蔵野児童学園

7月23日に府中にある関東医療少年院の見学の機会に恵まれました。これは、武蔵野児童学園の非常勤医師である島田療育センターはちおうじの小沢浩院長を中心とした、島田療育センターはちおうじと武蔵野会のコラボ企画として、日本医科大学の野村俊明医師の仲介の中、実現したものです。武蔵野会では、数年前から触法障害者支援を行っていることから少年の矯正領域にも関心が高く、法人内から15名の参加がありました。

関東医療少年院は、日本に4つしかない医療少年院の1つで、82床の病院機能を持ちます。身体疾患や身体障害、精神疾患や精神障害などを有する者が対象で、家庭裁判所の審判において加療の必要性が付記され入院してくる者もあれば、一般少年院に在院中に疾患を発症し、転院してくる者もいるとのことでした。定員は110名ですが、子ども人口の減少に伴い、少年非行犯罪も減少傾向にあり、ここ数年現員が40名を越えることはないそうです。少年達に実父母がいる割合が、男子60%、女子12・5%と紹介され、とりわけ女子にとっては、家庭の守りが弱いと非行化リスクが高まることが印象に残りました。最近の傾向としては、精神疾患の割合が増加していること（平成9年には身体疾患と精神疾患の比率が1対1であったのに比し、平成26年には3対7）や、出院後の引き受け先が見つからないため在院期間が長期化していることが挙げられていました。

少年においても、やり直しを支える社会的な受け皿の少なさが課題となっており、福祉領域への期待も大きいと感じられました。

少年院のしおり

施設あれやこれや

さくら学園

さくら学園の利用者さんが手織りした色鮮やかな生地が、手提げバッグやポーチになります。独特な色使いは利用者さんのセンス、それをみごとに生かして使いやすさも抜群のバッグに仕上げてくれるのは、一人の女性ボランティアさんです。

大島恵の園

パッションフルーツがいくつか実りました。収穫後、表面にしわができるまで待つとより甘くなるとのことで、しわができるのを楽しみにしたひと夏の出来事です。

すてっぷ

就労している障がいのある練馬区民が集い、仲間作りや情報交換の場として年に2回、「たまりばプレミアム」という催し物が実施されます。利用者が実行委員として工夫を凝らして十月の開催に向け奮闘中です。

児童学園

長～い夏休み、山・海・電車旅行と夏を謳歌しました。そして8月の最終週に恒例のサマーフェスタが無事終わり「来週から学校か～」と言いながら元気に2学期を迎えました。

えみふる

毎年行っている宿泊旅行は、箱根にある千代田区の保養所を利用していました。ところが大涌谷の騒ぎで急遽八景島水族館の日帰り旅行に変えました。参加者には楽しみを1日間に凝縮し楽しんでいただきました。

八王子生活実習所

毎年のことですが7月から9月にかけて、実習生に大勢来てもらいます。社会福祉士実習・保育士の福祉実習、教職の介護等体験実習など様々です。最多で1日に16人の若い人たちが溢れました。

きね川福祉作業所

今年度の重点目標として地域交流を掲げています。その一環として夏休み工作教室を実施し、近隣から沢山の子ども達が来所しました。GENKIまつりも内容をさらに充実し利用者や地域の方々にも好評を得ました。

リアン文京

11月13・14・15の三日間に渡り「文京総合福祉センター祭り」を開催いたします。前夜祭・本祭・後夜祭の三日間、文響フェスと銘打った音楽祭や映画会、障害者芸術展、講演会や各種講座を行います。その他、移動動物園・水族館などもあります。

お知らせコーナー

10月

3日	バスハイク	(えみふる)
	希望の里祭り	(希望の里)
11日	わがまち楽習会 ①『ちづる』上映・赤崎監督講演	(東堀切くすのき園)
17日	第14回くすのき祭	(東堀切くすのき園)
24日	ふれあいまつり開催	(大泉町福祉園)
	秋桜祭り	(さくら学園)
31日	すぎなセミナー	(すぎな愛育園)

11月

7日	ふじもり祭	(八王子福祉作業所)
8日	さぎょうしょ祭	(烏山福祉作業所)
13~15日	文京総合福祉センター祭り	(リアン文京)
17日	施設公開	(大泉町福祉園)
21日	わがまち楽習会②きょうだいの気持ちを聴く	(東堀切くすのき園)
23日	障害者とその家族の激励慰安会	(えみふる)
24~28日	第2回ART HSJ展	(八王子福祉作業所)
26~12月2日	葛飾区障害者作品展	(葛飾地区)

12月

5日	障害者フェスティバル参加	(大泉町福祉園)
	実践事例報告会	(大島地区)
29日	団体帰省(往路)~1/4まで	(大島地区)

平成27年度・武蔵野会セミナー

生きにくさを抱えた人たちにどう向き合うか

～罪を犯した障害者の支援者ネットワークを広げる～

日　時　平成27年11月3日(火) 12：00～16：00

会　場　イイノホール(千代田区内幸町2-1-1飯野ビル4F)
地下鉄「霞が関」C4(千代田線・日比谷線)／B2出口(丸ノ内線)

参加費　無料

プログラム

12：00～　開会挨拶

12：10～13：30　基調講演
テーマ：「激動する社会、社会福祉の理念と役割は何か」
講　師：**炭谷　茂氏**　(社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長)

13：45～16：00　シンポジウム
テーマ：「もう刑務所には戻らない」
伝える～伝わる　そこから始まる支援
シンポジスト：
赤平　守氏(NPO法人日本障害者協議会理事)
鶴飼マリ子氏(八王子医療刑務所福祉専門官)
笹生伊志夫氏(社会福祉法人原町成年寮理事)
高橋　信夫(社会福祉法人武蔵野会本部長)

主催：社会福祉法人武蔵野会
後援：社会福祉法人東京都社会福祉協議会・NPO法人日本障害者協議会

－ 申し込み・お問い合せ －
Meil:musashinokai@voice.ocn.ne.jp
Tel:042-623-8509　Fax:042-626-7797(武蔵野会本部)

ショーケース

自主生産品紹介

「パセリとサラミのマフィン」

世田谷福祉作業所

☎042・626・0631

ボヌールでは、作業所前の畑で採れた野菜を使用し、毎年限定商品を作っています。今年は、ホクホクのじゃがいものマフィンです。パセリやサラミをトッピングし丁度良い塩気で、又、甘さ控えめなので食事の代わりにもなるマフィンです。

パセリとサラミのマフィン
2個セットで350円

「バッグ・ポーチ」

さくら学園

☎0550・89・0789

利用者が手織りした生地を活用して、バッグやポーチを作りました。利用者のセンスを生かした独特の色鮮やか手織りの布が、一つ一つ手作りで個性のあるバッグになっています。唯一無二のオリジナル・バッグ。あなたに合う一点を探してはいかがでしょう。お問い合わせはさくら学園まで。

ポーチは500円
バッグは1500円～

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する25施設と6つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931
東京都八王子市台町 1-19-3
電話・FAX 042－626－9772